

2022年度新収蔵資料の紹介

— 標茶町虹別で実施された熊送り儀礼の写真ほか —

大坂 拓・亀丸由紀子

目次 はじめに

- 1 さけます友の会寄贈資料
- 2 阪口諒氏寄贈資料
- 3 A氏複製資料
- 4 齊藤碩氏寄贈資料

Key Words アイヌ民族 (Ainu)、首飾り (Necklace)、桶 (Tub)

はじめに

本稿は、北海道博物館アイヌ民族文化研究センターが2021(令和3)年12月から2022(令和4)年11月末日までに寄贈を受けた資料のうち、写真・民具の全点について報告するものである。

執筆は、はじめに・1・2・3を大坂が、4を亀丸が分担した。内容について、特に見解の統一は行っていない。

1 さけます友の会寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所さけます部門札幌拠点を通じ、同所OB組織である「さけます友の会」が保管していた資料をご寄贈頂いたものである。

資料は写真7点で、これまで知られている記録との対比により、全点が1939(昭和14)年12月16・17日に標茶村大字虹別(当時)スワンコタンで実施された熊送り儀礼を撮影したものであることが確認できる。アイヌ民族が被写体となった写真類は数多く残されているものの、大半は撮影地・撮影年代等の基礎的な情報を欠いている。そうした中であって、撮影地・撮影年代を明確にできるものは貴重であることから、2022(令和4)年度第1回資料審査会(5月11日開催)に諮り、受け入れが承認された。資料番号は186619～186625である。

(2) 資料の内容

本資料が撮影された際の熊送り儀礼については、『北方文化研究報告』第3輯に掲載された「イオマンテ(アイヌの熊祭)の文化的意義とその形式」に詳細な報告がなされており(犬飼・名取1930)、同報告中の写真図版には、今回寄贈された資料と類似するカットが多数含まれている。また、2004年に刊行された『クマとフクロウのイオマンテ』にも関連する写真資料が掲載されており、そこには今回寄贈された資料と同一カットのものが3点含まれている(宇田川編2003:写真5・6・7)。

これらの先行研究をもとにして、資料をおおむね式次第の順に配列した。図1:1は、飼育していた檻から熊を出す場面である。同2は、「ボンバケ」(背飾り)・「カムイニンガリ」(耳飾り)を付けるために、熊を「イユツクニ」と呼ばれる又木に押さえつけている場面で、「待ち構えている十数人の屈強の若者の一人が、真先に小熊の後から飛び掛かって、両耳を捕えると同時に、耳と耳の間の皮に力限り喰い付く」(犬飼・名取1930:121)と描写された状況を捉えたものであろう。これまでに刊行されたものの中にも「イユツクニ」の写真は含まれていたが(犬飼・名取前掲:第廿三図)、今回の写真によって、上端部には木幣が差し込まれていたことが新たに確認できた。

その後、広場を走らせる場面(図2:1)、花矢を射かけながら周囲で歌を歌う場面(図2:2;図3:1・2)、最後に、送られた熊を祭壇前に安置した場面と続く(図4)。

(大坂)

2 阪口諒氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

アイヌ語研究者の阪口諒氏より、同氏が古書店を通じて購入した資料の寄贈を受けたものである。資料は印刷物1点(図5)で、先行研究により撮影地・撮影年代が特定されているものと連続するカットであることに加え、印刷が極めて鮮明で、豊富な情報を読み取ることが可能な点で貴重と考えられることから、2022(令和4)年度第4回資料審査会(10月5日開催)に諮り受け入れが承認された。資料番号は187001である。

(2) 資料の特徴

保存状態は良好である。上部には「北海道土人」、左端部には「発行者 京都市西陣郵便局前 窪添春吉 印刷者 大崎幸四郎 印刷所 神戸 光村印刷株式会社」と記載されている。

1898(明治31)年2月5日刊行の雑誌『太陽』第4巻第3号、及び同年6月刊行の『旅の家つと 蝦夷の巻』に、本資料と連続して撮影された可能性が高いカットが掲載されている。これらについては石橋孝夫氏が検討を加えており、いずれも1897(明治30)年に石狩川河口域で撮影されたもので、被写体は対雁への強制移住後に同地に居住して居た樺太アイヌであることが指摘されている(石橋2013)⁽¹⁾。

(大坂)

3 A氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

道内居住のA氏より、古物商から購入した資料の寄贈を受けたものである。

資料は桶1点で、年代・地域・旧蔵者が明確な資料として貴重であることから、2022(令和4)年度第1回資料審査会(5月11日開催)に諮り、受け入れが承認された。資料番号は186618である。

(2) 資料の特徴

本体はややタガの緩みが認められるものの、状態は比較的良好である。蓋は破損している。

底部外面には、「明治参拾八年一月/日高国沙流郡/新平賀村/第無号/□□コノントル⁽²⁾」の墨書がある。

北海道立文書館が所蔵する北海道国有未開地処分法完結文書中に含まれる、1919(大正8)年に沙流川土工組合によって用水路整備が行われた際の記録の中に、「大字平賀村」に居住する同名の人物が確認できることから⁽³⁾、墨書の情報は正確なものと考えられ、本資料は年代・地域・旧蔵者が明確なものとしてよい。

(大坂)

4 齊藤碩氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

寄贈者の齊藤碩氏によると、この首飾りは、氏が幼い頃(今から約80年ほど前、1940年代頃)から家にあったもので、氏の幼少期に仕事の都合で頻りに樺太を訪れることがあったという氏の父親が入手したものである可能性が高い、とのこと。

氏の父親である齊藤尚(ひさし/たかし)氏は、札幌市在住の油絵画家であり、北海道美術協会が主催する美術展「道展」には第二回(1926(大正15)年)から第十五回(1939(昭和14)年)までの間、ほぼ毎年作品を出展、初出展の第二回では協会賞を受賞している。また、同時期に開催されていた「二科展」でも入賞経験があり、第七回、八回、十二回の「道展」では、ポスターや記念の手ぬぐいのデザインを担当、北海タイムス(当時)等の新聞記事にも度々取り上げられるなど、昭和初期の北海道美術界を盛り上げた人物の一人であった。

寄贈者によると、氏の父親は、北海タイムスの記事等の挿絵も描くことがあったそうで、新聞記者に同行して樺太を訪れることが頻りにあり、その際、アイヌのほか、ニヴフやウイルクなどの先住民族のものを土産品として、家に持ち帰ることもあったという。

上記の経緯から、当該資料は、寄贈者の父親である齊藤尚氏によって、1945年以前の樺太で収集された可能性が極めて高い。また、現在、博物館等に残されている樺太アイヌ由来の首飾り資料の類例は極めて少なく、樺太にゆかりがある本資料は、今後の研究活動において極めて貴重かつ重要なものであると言える。

以上の理由により、2022(令和4)年度第2回資料審査会(2022(令和4)年6月29日開催)で受け入れが承認された。資料番号は186728である。

(1) 本資料に記載された「光村印刷株式会社」と、『旅の家つと』の発行所「東京市赤坂区田町七丁目四番地 光村写真部」との関係は明らかにできていない。

(2) プライバシー保護のため姓は伏せた。

(3) 個人情報多数含むため資料番号等は伏せる。

(2) 資料の特徴

当該資料は、一部素材のガラス玉にヒビや欠けがあるものの、資料全体の状態は良好。ガラス玉を通した紐は一連で、おおよそ線対象になるよう同じ大きさ、色味の玉が配置されている。紐の両端は、木製板に金属板を合わせた飾り板の上部にあけられた穴にそれぞれ結ばれている。寄贈時には、首飾り本体の他に、ガラス玉（半分欠損）1個、木玉（半分欠損）1個が付属、これらは、割れや欠けなどで本体から外れてしまったものであると推測される。

首飾りの玉には、青・紫・黒・透明・緑・白等のガラス玉、瑪瑙玉、金属玉が使用されており、釣り糸（テグス）のような化学繊維の紐で繋ぎ直した痕跡が認められる。上部の結び目付近には、壁等かけられるよう、ビニル紐を依ったものが別途付けられている。

飾り板は漆器（外黒、内朱）の転用と推測され、やや歪な丸型に加工された木製の板が土台として使用されており、表面には半円状に打ち出された金属製の板が金属製の釘と樹皮製の紐によってつなぎ止めるようにして、木製の台板に貼られている。また、飾り板の裏面を見ると、土台となる木製の板に生じたワレが、樹皮製の紐でつなぎ合わせるように補修されていることが分かる。

このようなタイプの飾り板はアイヌが自製したものである可能性が極めて高く、古いタイプのアイヌの首飾りに該当する。

(亀丸)

謝辞

資料をご寄贈下さった皆様に対し、末筆ながらあらためて心よりお礼申し上げる次第です。

引用文献

- 石橋孝雄 2013. 口絵2. 明治30年に撮影された石狩市関係写真. いしかり砂丘の丘資料館紀要 3.
- 犬飼哲夫・名取武光 1930. イオマンテ（アイヌの熊祭）の文化的意義とその形式（二）. 北方文化研究報告 3.
- 宇田川洋編 2004. クマとフクロウのイオマンテ—アイヌの民族考古学—. 同成社.
- 児玉とみ 1968. アイヌ首飾りの飾り板（シトキ）の研究—前編 アイヌ自製のシトキ—. 北海道の文化 15.
- 今田敬一 1970. 北海道美術史 地域文化の積み上げ. 北海道立美術館.
- 北海道美術協会 1965. 道展四十年史. 北海道美術協会.



1 資料番号 186624



2 資料番号 186625

図1 さけます友の会寄贈資料①



1 資料番号 186623



2 資料番号 186620

図2 さけます友の会寄贈資料②



1 資料番号 186622



2 資料番号 186619

図3 さけます友の会寄贈資料③



1 資料番号 186621

図4 さけます友の会寄贈資料④



図5 阪口諒氏寄贈資料（資料番号 187001）



1



2

図6 A氏寄贈資料 (資料番号 186618)



1



2



3



4

図7 齊藤碩氏寄贈資料 (資料番号 186728)

表1 2022年新規登録資料一覧

取蔵番号	資料名	説明	年代	使用地	備考
186619	写真(熊送り儀礼)	タテ11.9cm、ヨコ16.4cm			
186620	写真(熊送り儀礼)	タテ11.9cm、ヨコ16.5cm			
186621	写真(熊送り儀礼)	タテ11.9cm、ヨコ16.5cm			裏面に「安田」の鉛筆書き
186622	写真(熊送り儀礼)	タテ12.0cm、ヨコ16.5cm			
186623	写真(熊送り儀礼)	タテ12.0cm、ヨコ16.5cm			
186624	写真(熊送り儀礼)	タテ12.0cm、ヨコ16.5cm			
186625	写真(熊送り儀礼)	タテ10.8cm、ヨコ12.0cm			
186618	漆塗り桶	口径42.0cm、高さ46.5cm	1905年	沙流郡	
186728	首飾り	長さ：54.7cm、飾り板(タテ：10.5cm、ヨコ：10.2cm)	1940年代以前か	サハリン	ガラス玉(半分欠損)1個、木玉(半分欠損)1個が付属
187001	写真(樺太アイヌ)	タテ52.0cm、ヨコ65.cm			

Introduction of New Additions to the Collections in FY 2022: Photographs of the Bear-sending Ceremony in Nijibetsu, Shibecha, and Other Materials

OSAKA Taku and KAMEMARU Yukiko

This paper reports on the photographs and folk artifacts donated to the Hokkaido Museum Ainu Culture Research Center from December 2021 to the end of November 2022.

The materials donated by the Salmon Trout Society comprise seven photographs (Material Nos. 186619–186625), all of which depict the 'bear-sending' ceremony held on December 16 and 17, 1939, at what was known at the time as Suwan Kotan in Oaza-Nijibetsu in the village of Shibecha.

The material donated by SAKAGUCHI Ryo is one print (Material No. 187001), which was taken in 1897 in present-day Ishikari City, and the subject is

Karafuto (currently Sakhalin) Ainu who resided there after their forced relocation from Karafuto.

Material donated by an anonymous Mr./Ms. A is a tub (Material No. 186618) with the inscriptions 'January, Meiji 38 (1905),' 'Hidaka-koku, Saru-gun, Shinbiraka-mura, Daimu-go,' and '□□ Konontoru' on the bottom, which is an important material in that the date, area and user can be identified.

The material donated by SAITO Tsutomu is a necklace (Material No. 186728), which was extremely likely to have been collected in Karafuto before the 1945.